

（明日香村に間伐材有効活用の炭焼き窯が10年ぶりに復活）

明日香村の国営飛鳥歴史公園事務所は、1月9日～12日の4日間をかけて、甘樫丘で炭焼き窯を復活させた。村内では、稲渚地区に炭焼き窯が作られて以来10年ぶりの復活となった。

同公園事務所は、祝戸、石舞台、甘樫丘、高松塚周辺の四地区（総面積46.1ha）を管理しているが、自然や文化的遺産が残る公園の景観を守るため、木々の間伐をしており、間伐材の処理を産廃業者に任せていたため、チップなどに有効活用されていたのは、ごく少量であった。

こういう事情を踏まえて、公園の間伐材を再利用し、資源の有効活用を図ろうと、16年12月より、明日香村、同村森林組合、国営飛鳥歴史公園事務所、同村地域振興公社、同村観光開発公社、JA奈良県あすか経済センターなど各種団体が、「エコあすか交流会」を立ち上げ、検討を重ねてきた。

同交流会は、公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」の協力を得て、炭焼き釜を復活させることになった。

■今回の窯作り：初日は、甘樫丘北側の斜面の掘削と排水管の設置を行い、二日目は焚き口周辺を施工した。三日目は原材（間伐したクヌギの木）を窯に詰め込み、四日目は窯の上に土で天井を作り土を踏み固めたあと、天井の上で枝木を燃やし、天井部を更に固めて窯を仕上げた。

窯の大きさは、高さ約1.6m、幅約1.8m、奥行き約2.1mで、一度の炭焼きで約300Kgの炭が取れる。

今後、年に3～4回のペースで炭焼きが行なわれ、炭は、公園内や飛鳥川の水質浄化のほか、イ

ベント時に観光客向けの配布グッズとして利用される。

各地で間伐材の利用方法を研究しているが、炭焼きもひとつの方法と思われる。（上田）



窯の上の天井の土を踏み固める作業



土の天井を枝木で燃やし固める作業

これからの主な催し

〔主な行事〕

●2月18日（日）

鏡作神社（かがみつくりじんじゃ）御田祭
古くから鏡づくりの神として信仰を集めている神社。美の神として技術向上を願う美容師や鏡業界の関係者の参拝が多い。

午前10時頃から「祈念祭」が行われ、午後1時頃から「御田植舞」「豊年舞」の奉納と牛使いの神事を行なう。

近鉄橿原線田原本駅下車 徒歩15分

問合せ：鏡作神社

TEL：0744-32-2965

〔四季の花〕

●2月中旬～3月下旬【梅】

月ヶ瀬梅溪（本数：約1万本）

広橋（下市町）・賀名生（五條市）とともに奈良県の三大梅林として知られ、その中で月ヶ瀬が一番早く咲く。五月川に沿った溪谷の両側約4kmにわたって広がっており、様々な眺望が楽しめる。

JR・近鉄奈良駅よりバス約80分、JR月ヶ瀬口駅よりバス約20分、近鉄上野市駅よりバス約30分

問合せ：月ヶ瀬観光会館

TEL：0743-92-0300